

## 巻頭言 生物学的精神医学を振り返って

中川 伸

山口大学大学院医学系研究科 高次脳機能病態学講座

昨年から理事に就任いたしました中川 伸と申します。どうぞよろしくお願い致します。2年以上続いている新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックは本原稿を執筆している 2020 年 10 月においてはやや沈静化しているものの、変異種が続々と報告されるなど人間の英知を試されているかのように感じられます。

巻頭言を書くことになり、振り返ってみると「生物学的精神医学」に携わるようになってから 30 年にもなります。精神科を選択したのは、曖昧模糊のように感じ、ブラックボックスだらけにみえる領域に惹かれたからであります。それらを理解していかうとした方法論として「生物学的」なものを学生のときから選択していました。明快で科学的と感じていたからです。では科学的とは何でしょうか？

スーパー大辞林 3.0 には科学について「学問的知識」「自然や社会など世界の特定領域に関する法則的認識を目指す合理的知識の体系または探究の営み。実験や観察に基づく経験的実証性と論理的推論に基づく体系的整合性をその特徴とする。研究の対象と方法の違いに応じて自然科学・社会科学・人文科学などに分類される。狭義には自然科学を指す。」とあります。現在までの生物学的精神医学は「実験や観察に基づく経験的実証性」に重きが置かれてきたように感じます。また、以前は実証性を担保する方法としてもっとも重要視していたものとして「再現性」があげられてきたかと思われ。言い換えると反証可能性です。しかし、複雑系においては再現することが困難である場合が多く、そのために統計学の手法を用いてこれらを科学の対象に落とし込

んでいったようにみえます。さらに、もう一つの重要な科学的姿勢である因果関係を追求することは軽視されてきているように感じられます。

DSM-5 における精神疾患の定義をみてみましょう。「精神疾患とは、精神機能の基盤となる心理学的、生物学的、または発達過程の機能障害によってもたらされた、個人の認知、情動制御、または行動における臨床的に意味のある障害によって特徴づけられる症候群である。精神疾患は通常、社会的、職業的、または他の重要な活動における著しい苦痛または機能低下と関連する。よくあるストレス因や喪失、例えば愛するものとの死別に対する予測可能な、もしくは文化的に許容された反応は精神疾患ではない。社会的に逸脱した行動 (例：政治的、宗教的、性的に) や、主として個人と社会との間の葛藤も、上記のようにその逸脱や葛藤が個人の機能障害の結果でなければ精神疾患ではない」とあります。認知、情動制御、行動など神経科学との繋がりが示唆されるとともに、改めて対象が環境などによる相対的な基準の上にある、究極的な複雑系だということを実感します。病態を研究するうえでは診断基準は「連続性の事象の中に便宜的に線を引くようなもの」<sup>1)</sup> しかありません。今後、「論理的推論に基づく体系的整合性」をより意識すべきではないかと最近は感じている次第です。

### 文 献

- 1) 尾崎紀夫, 三村 将, 村井俊哉編 (2018) 1 精神医学とは. 標準精神医学. 医学書院, 東京.